「スタジオ無料貸出し」

～使用感想レポート～

水天宮ピットでは2011年1月31日から2月27日までの28日間を一定期間の稽古場確保に困難をきたしている団体に向けて、 連続した稽古場使用による作品のクオリティ向上を体験して頂くべく無料でスタジオの貸出しを行いました。

多数のご応募の中から、 利用選考委員会による厳正なる審査の結果、 下記の3団体に、中スタジオ2をご利用頂きました。

①Odorujou　スタジオ利用期間：2011年1月31日～2月6日
「TPAM 2011 in Yokohama」
2011年2月20日
横浜赤レンガ倉庫1号館2Fギャラリー

②空想組曲　スタジオ利用期間：2011年2月7日～2月20日
第7回公演「ドロシーの帰還」
2011年2月23日～2月27日
赤坂レッドシアター

③劇団Theatre Polyphonic　スタジオ利用期間：2011年2月21日～2月27日
第2回公演「ACCIDENTS2」
2011年3月1日～3月2日
神楽坂die pratze

それでは、 稽古場風景とともにスタジオ体験レポートをご覧ください。

Odorujou

JOU

自宅から自転車で7分程、安産の神様で有名な水天宮の近くに水天宮ピットはある。東京の東側エリアには歌舞伎座、明治座、落語の小屋などでは有名だが、コンテンポラリーなパフォーマンスのための場所が何しろ少ない。セゾン文化財団が所持する森下スタジオはあるが、パフォーミングアートの中でも使用者になれる団体は極めて限定されている。よって、常日頃練習に使っているご近所エリアの場所も、ダンスのための場所ではなく広めの会議室だったりすることも多い。そんな厳しい条件で活動を続ける自分達に希望の光となってくれたのが水天宮ピットなのであった。

ちょうど申請がおりた2月上旬は、デンマークからダンサーが来てソロ作品の振付を提供する為のリハーサルをすることになっていた。自分だけなら会議室での稽古も仕方ないが、わざわざデンマークからリハーサルに来て、借りれる施設を点々と流浪しながら稽古するというのも申し訳ない…と思っていたので本当に助かった。期間中は天気も良く、窓からの日光にもエネルギーをもらいながらじっくりとクリエーションできたことに深く感謝する。デンマーク人も観光や舞台芸術の仕事ではなかなか縁がない人形町エリアとともに、このスタジオでの時間をとても楽しんでいたようだ。リハーサルはスムーズに進み、1 週間という期間はあっという間ではあったが、荒いながらも作品を終えることができた。ここでリハーサルした作品は今年の 6 月末デンマークのコペンハーゲンで他作家の 2 作品とともに初演を迎える予定である。

1 週間ゆっくりと時間をかけてリハーサルできること、機材や舞台美術を置いておけること、リハーサルで通う先の場所が同じであるということの利便は頭ではわかっていたことだが、こうした条件で実際に使ってみて初めて自分の身体で実感として体験することができた。それがどういうことかというと言ってみれば、リハーサル場所が定まらないということは自分の家が定まらない暮らしと同じようなものである。公認の団体として利用できるということは、公的社会的にも自分が存在していることになる。そのことから、作家や表現者としての自覚や新たな認識も生まれるのだ。つまりプロジェクトの拠点場所を得て、公式の認可をもって創作するという環境は創作される舞台芸術の質を向上させ、安定させ、アーティストに自信を持たせることに繋がるんだと思った。

また、この貴重な機会に国際プロジェクトとスタジオ時間をシェアする形で若手ダンサーに踊ってもらう Jou 振付の小作品のリハーサルと、照明機材やスクリーン等の装置を必要とする新作のためのリサーチクリエーションも行った。お陰でデンマーク人だけでなく、一緒に活動している日本のダンサー達とも水天宮ピット体験を共有することができた。そのことが持つ意味は大きいと思う。

期間が終了する日は、撤収が意外に大変だった。搬入設営と撤収。特に装置や機材等が必要な場合、初日と最終日の稽古はあまりできないものと思っていた方が良いかもしれない。つまり 7 日スタジオがあっても実質は 5 日間、ということである。こうした感覚も、実際連続で使ってみなければわからないことだ。日本には住民のための集会施設や社会教育の施設はあるが、パフォーミングアートセンターのような芸術活動に特化した施設がまだまだ少ない。水天宮ピットのような施設が今後、各自治体に増えて欲しいし、芸術活動が住民の理解を得て、身近に楽しめるような繋がりができることを心から願う。

また、限られたごく少数のアーティストだけが利用できる特権的施設ではなく、舞台芸術表現の底上げにも繋がるような利用の門戸を開いていって欲しいと思う。そのためには、イギリスでやっているような施設の周辺地域住民へのアウトリーチを兼ねたコミュニティダンス WS 企画や , パリにあるような舞台表現者が参加できる常時 WS の企画などをしてゆくことも必要ではないかと思った。そうしたことの中で、自分にもできることがあれば創作活動の傍らではあるが、喜んで協力していきたいと思う。住民集会ではなく認可されたアーティストとして、正々堂々と施設を使えクリエーションに集中できた1週間は、本当に幸せな時間でした。ありがとうございました。

空想組曲

主宰　ほさか よう

立地、環境共に素晴らしい稽古場でした。

固定の稽古場を使うということは、小道具や衣装をおいたままにできるといった単純に手間が減るというメリットもありますが、何より大きいのは「本番に近い環境を作りだすことができる」ということだと改めて気付かされました。

演劇は再現性が必要な芸術です。クオリティをあげるためには、なるべく本番と同じ状態での繰り返し稽古をすることが必須となります。しかし、小劇場の団体でこれを行うのは非常に難しいことです。

今回水天宮ピットの稽古場を貸していただくことで、その環境を作りだすことができました。
結果、作品のクオリティも確実にあがったと思っています。

すべての小劇場団体はこういった充実した稽古場環境を体験すべきだと確信しました。
もちろん毎回素晴らしい稽古場を用意するのは、予算や条件的に難しいかもしれません。しかし、一度でも体験すれば、その必要性を理解できるはずだし、諸々の事情で環境を用意できない時も「何を努力で補うべきなのか」その答えを思索することができると思うのです。

今回このような機会を設けてくださり深く感謝しています。本当にありがとうございました。
今後、演劇界によりいっそう質の高い稽古場が充足するよう願っています。

劇団Theatre Polyphonic

シアターポリフォニック・俳優私塾ポリフォニック主宰　　石丸さち子

今回、公演で劇場入りする前の一週間、水天宮ピットで稽古をさせていただく幸運に浴しました。二十代から六十代までの俳優塾の生徒がプロの共演者を得て上演するオムニバス公演。ずっと稽古場ジプシーだった我が俳優塾チームは、贅沢な環境で作品の最終調整をすることができました。

まず、そこが様々な創り手たちの磁場であること。日頃、区の施設やレンタルスタジオで、肩身の狭い思いをして稽古することがよくあります。でもここは、作品を創る人たちが集まっているクリエイティブな場所で、しかも演劇を理解するスタッフが待ってくれています。誇りを持って通い、共有スペースでは挨拶しあえるということが若い俳優たちには、まず贅沢なことでした。

そして固定の稽古場に入ると道具が置けます。美術家が稽古場にいて芝居を観ながら、図面に書いたものを立体に立ち上げていく様子をそばで俳優が見ていられるという贅沢。また、小道具も衣裳もすべて稽古場に置いて帰れますから、行き帰りで徒に疲れることがありません。今回は、出演者に六十代女性が二人いました。若者より余程タフに見える先輩たちですが、彼女たちが身軽に稽古場に通ってこられるのはとてもありがたかった！　窓を開ければ風の抜ける気持ちのいい空間でゆったりした気持ちでアップする。稽古が始まる時には、窓と黒幕を閉めきってそこは一気に劇空間になります。劇場に入る前の前哨戦にはぴったりの場所。隣接する制作室では衣裳のサイズ直し、早変わりの稽古、小道具の調整、稽古中も同時進行できます。

わたしは、演出助手として長らく恵まれた稽古場で仕事をしてきました。その頃を思えば、今回の贅沢はとても当たり前なことのようにも思えます。でも、演出家として俳優のトレーナーとして一から仕事を始めてからは、自分のもとに集まってくれた俳優たちにその当たり前を提供することができないでいました。東京での演劇の稽古場事情は厳しく、経済的にも良い環境の確保はとても難しいことです。今回は、東京芸術劇場と水天宮ピットの方々のご好意で人の温もりと手触りのある場所で、よい稽古をすることができました。これからは、演劇制作にまつわる当たり前のようで難しいこと、理不尽なのに当たり前だと思われていることとまた闘っていかねばなりません。演劇の力を、疑いながら、信じながら。

お問合わせ
〒103-0015　東京都中央区日本橋箱崎町18-14
水天宮ピット
TEL　03-6661-6901
FAX　03-6661-6951
E-MAIL　s-pit@geigeki.jp